

## 会 議 の 概 要

1 会 議 名	令和2年度第3回宝塚市社会教育委員の会議
2 開 催 日 時	令和3年3月23日(火) 10時00分～11時30分
3 開 催 場 所	宝塚市役所3階 特別会議室
4 出 席 委 員 [■出席 □欠席]	<input type="checkbox"/> 平井委員 <input checked="" type="checkbox"/> 田中委員 <input checked="" type="checkbox"/> 林委員 <input checked="" type="checkbox"/> 薄田委員 <input type="checkbox"/> 大西委員 <input type="checkbox"/> 温井委員 <input checked="" type="checkbox"/> 河野委員 <input checked="" type="checkbox"/> 西本委員 <input checked="" type="checkbox"/> 種村委員 <input type="checkbox"/> 松委員 <input checked="" type="checkbox"/> 大坪委員
5 傍 聴 者 数	0 人
6 公 開 の 可 否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可
7 議 題 及 び 結 果 の 概 要	<p>◆報告</p> <p>(1) 阪神北地区社会教育委員協議会第1回研修会について</p> <p>(2) 阪神北地区社会教育委員協議会第2回研修会について</p> <p>(3) 阪神北地区社会教育委員協議会第4回理事会について</p> <p>◆議題</p> <p>(1) 「ことばの教室運営委員会」への補助金交付について</p> <p>(2) 地域課題解決のための社会教育のあり方について</p>

## 令和2年度 第3回社会教育委員の会議 議事要旨

### 1 報告事項

#### (1) 阪神北地区社会教育委員協議会第1回研修会について

令和2年12月7日、猪名川町立文化体育館小ホールで開催された令和2年度阪神北地区社会教育委員協議会第1回研修会について事務局より報告した。

#### (2) 阪神北地区社会教育委員協議会第2回研修会について

令和3年2月10日～3月31日まで配信されている令和2年度阪神北地区社会教育委員協議会第2回研修会について事務局より報告した。

#### (3) 阪神北地区社会教育委員協議会第4回理事会について

令和3年3月18日、猪名川町立文化体育館小ホールで開催された令和2年度阪神北地区社会教育委員協議会第4回理事会について事務局より報告した。

### 2 議題

#### (1) 「ことばの教室運営委員会」への補助金交付について

(議長)

「ことばの教室運営委員会」への補助金交付について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

社会教育法第十三条の規定により、地方公共団体が社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合には、社会教育委員の会議に意見を聴かなくてはならないとなっています。令和3年度に補助金を交付する予定の「ことばの教室運営委員会」について、説明します。「ことばの教室運営委員会」は、知的障害(がい)、情緒障害(がい)により言語に障害(がい)のある子どもに対し、言語訓練を通じて、心身の統合的発達を図ることを目的として活動している保護者等の団体です。活動内容は、言語聴覚士による言語訓練を週2回行っています。補助金については、交付要綱により、事業に要する事務的経費の3分の1を上限と定めて、交付しています。なお、同団体は「宝塚市手をつなぐ育成会」からも年額60万円の補助金を受けており、残りの経費については、参加者の負担金で賄っています。平成22年度から令和2年度まで65万円の補助金を交付していましたが、令和3年度より補助金額を60万円とする予定です。

(議長)

「ことばの教室運営委員会」への補助金交付について、質問等ありましたらお願いします。

(委員)

活動場所は、学校ですか。

(事務局)

くらんど人権文化センター又は西公民館になります。

(議長)

補助金の減額については、市の財政状況も考慮しての結果だと思うのですが、減額したことで言語聴覚士の活動に支障はないでしょうか。

(事務局)

毎年、事業報告書を確認していますが、繰越金も生じているので5万円の減額では、活動に支障はないと考えています。

(委員)

補助金の予算上限が60万円とありますが、他の団体が申請していることはありますか。

(事務局)

他の団体へは、補助金を交付するという形では支援できていないのが現状です。ただし、視覚障碍（がい）者、聴覚障碍（がい）者へは、社会学級事業として活動している運営委員会へ委託することで支援しています。補助金の交付という形ではなく、形式を変えての支援は継続したいと考えています。

(委員)

社会教育委員の会議では、補助金の交付について議論をするのですか。又は運営委員会の成果について議論をするべきなのでしょうか。

(事務局)

社会教育法第十三条に地方公共団体にあつては教育委員会が社会教育委員の会議の意見を聴いて行わなければならないとありますが、第十二条に社会教育団体に対し、いかなる方法によつても、不当に統制的支配を及ぼし、又はその事業に干渉を加えてはならない、とあります。社会教育委員の会議で意見いただくのは自由ですが、事務局はいただいた意見を補助金交付についての参考にさせていただきます。

(委員)

「ことばの教室運営委員会」の実績が分かれば教えていただきたいです。

(事務局)

会員は約20名、年間100回程度活動しています。運営費約200万円は、言語聴覚士への講師謝礼、交通費、教材費などに使っています。会員からは、言語訓練だけでなく言語障碍（がい）に関する相談などもできることが、助かっているという声があがっています。

(委員)

ありがとうございます。

(議長)

その他、意見がないようでしたら、議題（1）「ことばの教室運営委員会」への補助金交付については以上とします。

(2)「地域課題解決のための社会教育のあり方について」

(議長)

それでは、議題(2)「地域課題解決のための社会教育のあり方について」協議を進めていきます。前回の会議では、委員に社会教育の定義や現状等について説明いただきました。改めて社会教育について理解できたと思います。今回は事前にお伝えしておき、前回の説明や各委員の今までの経験などを踏まえて、「宝塚市における地域課題」について意見を述べていただきます。今後は、本日いただいた意見を基に答申の内容を考えていきます。まずは、本日欠席されている委員より事前に意見をいただいているので、事務局より発表をお願いします。

(事務局)

欠席された2人の委員の意見を発表します。「行財政改革」、「少子高齢化」など課題は多いですが、市民の関心が低いのが現状と考えます。旧住民と新住民との意識格差、市長選の投票率が約39パーセントという現実、この混沌は市制施行後、半世紀経っても解消されていません。宝塚というブランドが大きいだけに、その内容は空疎で実感が無いというのが実感なのではないかと思えます。市民の関心はどこにあるのか、キャッチコピーを投げ続けるしか方法はないと考えます。キャッチコピーについては身近で楽しむような内容で共存意識に訴えるべきです。「街なか図書館」、「ネコカフェ」、「ディープスポット」、「武庫川下り」、「武庫川プロムナード」、「線香花火大会」など、お金を使わなくてもできることはたくさんあるはずで、小さな市民の塊をたくさん作ることで、醸成される新しい市民意識が、新生宝塚につながると確信します。さらに宝塚には西谷という夢のゾーンがあります。ここには大きな可能性があります。再開発や自然保護など、いろいろな可能性を探ることにより、宝塚の新しい都市像が生まれてくることに期待したいです。その過程こそが、宝塚の魅力として新しい世代を呼び込むのではないのでしょうか。お金がないなら知恵を絞ろう、そこから新しいエネルギーも一体感も生まれてきます。住みやすい魅力的なまち、宝塚はそこにあります。

2人目の委員の意見を発表します。宝塚市の地域課題ですが、ハード面や高齢者問題については、まちづくり協議会を中心に社会福祉協議会や市と一緒に第7次地域福祉推進計画を立てる上で、ずいぶん解決しているように感じます。ただ、そこに関わる人材育成については、なかなか追いついていないように思います。特に、若い世代の方が、まちづくりの話し合いの場にあまり出てきてない事を考えると、防災などをきっかけに他人ごとではなく、自分の問題として考える機会を発信して、目を向けてもらうような事を考えていく必要があると考えます。また、学校についてですが、今まで地域にも開かれた学校を目指していましたが、コロナの影響によって外部の人間を入れない対策を取っているため、今まで交流していた地域の人も学校へ入れない状況になっています。現時点では仕方のない事ですが、やはり子どもの育ちの中でいろんな人に出会うこ

とは大切なことなので、様子を見ながら、学校やたからづか学校応援団が中心になって、コロナ禍でもできることを考えていく必要があると思います。また、高齢者や不登校の児童、障害（がい）者、子育て世代など、誰もが集える場所があり、交流できたら地域も活性していくように思います。

欠席された委員の意見については以上です。

（議長）

各委員の意見に対する質問等については、全ての委員の発表が終了してから行いたいと思います。それでは、順番をお願いします。

（委員）

「宝塚市における地域課題」は、概ね小学校区にありますまちづくり協議会で作成している「地域ごとのまちづくり計画」が参考になります。各まちづくり協議会で挙げられている主な課題としては、防犯、緑の保全を含む環境、高齢者、児童の育成、障害（がい）児者のことが挙げられています。また、他府県や他市の社会教育委員の活動を確認すると、自身の経験をもとに発表されていることが多いです。例えば、子どもたちを集めた宿泊体験、福祉関係、防犯安全についてなどが多くありました。そういった活動を確認する中で、他部署との連携が重要になってくると感じました。また、生涯学習について、公民館のカルチャー化は問題だと今まで思っていたが、その思いは変わってきました。高齢者の居場所になっているという点を含め、人が集う場所を作るには、カルチャー化に偏っても人が関心を持つ仕掛けが必要ではないかと思います。ただ、次の世代が生まれていないというのは、問題点だと考えます。また、学校支援については、地域と一緒に子どもを育てていくコミュニティ・スクールは非常に重要だと思います。最後に「宝塚自然の家」についてですが、今後において可能性のある施設だと思います。三田市の野外活動センターが、指定管理者が交代になったことで利用者が増えていると聞いています。勉強して反映できるものがあればと考えています。

（議長）

次の委員をお願いします。

（委員）

「宝塚市における地域課題」と一言と言っても、地域課題は、各地域によりそれぞれ独自の課題を抱えています。それぞれの課題を出し合い、共通の課題、地域独自の課題と整理してそれぞれに対応していく必要があるでしょう。それを進めていくには、先ず地域別での課題収集整理が必要ではないでしょうか。地域別の課題収集を基に、宝塚市の現状を見直していく事が第一歩だと考えます。他の委員の意見にもあったとおり、地域課題を考えていく上でまちづくり協議会は、重要だと考えます。しかし、各まちづくり協議会の運営活動については、その状況により様々であると聞いています。各まちづくり協議会と自治会との関係性も同じくです。宝塚市としては、施策の中にまちづくり協議会についての項目を挙げて積極的に関わっていく事が必要だと思います。社会教育

が幅広い分野に関わっていることは、前回の会議や阪神北地区社会教育委員協議会研修会へ参加して、改めて感じています。社会教育は、全ての人に対する暮らし方、生き方に関わる学びでなければならないため、ひとつの部署だけの関わりでは進んでいきません。他部署と連携し、市全体で取り組む必要があります。各まちづくり協議会が作成している「地域ごとのまちづくり計画」をもとに、宝塚市の地域課題を把握していく事を提案します。また、これから作成する答申については、コロナウイルスの影響と次世代を育てることについては必要だと考えます。

(議長)

次の委員をお願いします。

(委員)

P T Aに関することになるのですが、コロナウイルスの影響によって、活動が大幅に縮小しました。活動範囲の縮小を機にP T Aの活動を見直していくと、活動内容によっては活動自体に疑問が生じること、そもそもP T Aの活動自体について考えることもありました。ただ、自分たちが社会教育活動として良くなっていこうという話には至っていません。

P T A活動を行うことで課題がたくさんありますが、瞬間的に課題を解決する傾向があり、他と共有することもあまりありません。P T Aに関する内容はプラバシーに関わることが多く、共有するのが難しい案件が多いことも要因だとは思いますが。地域によっては、地域住民を巻き込んで活動していることも多いのですが、人材育成には繋がっていないことが多く、次世代の人材育成は課題といえます。P T Aの組織体系が年度ごとに人員が替わるため、次世代の育成に繋がりにくいことが挙げられます。

(議長)

次の委員をお願いします。

(委員)

学校教育と社会教育の関係について話しをしようと思います。今まで委員の意見にもあったとおり、コロナウイルスの影響で、地域社会と連携した学校活動は大幅に減少しています。今後もこういった状況は続いていくと考えられるので、その中で、どういった活動ができるかを学校としては模索しています。地域との活動についてですが、学校に週休二日制が導入されたころ、「土曜ふれあい教室」と称して地域の方が講師となっただき、中学校で美術などを教えていただきました。ただ、活動も減少していき、現在は長尾中学校と宝塚第一中学校しか残っていません。講師になっていただく方との調整など、手間がかかることもありますが、年に1回の活動となっている現在は、無くすことのないように大切にしていきたいです。長尾中学校では、造園業を営んでいる方が地域に多くいらっしゃるため、造園について教えていただくなど地域の特色のある活動を実施しています。また、地域のお祭りに吹奏楽部が参加するなど地域の活動に参加するという形で関わっていることもあります。コミュニティ・スクールの話が出て

いましたが、令和4年度中には宝塚市内の全小中学校での導入を目標としています。課題となるのが、人材についてです。地域をまとめてくださるコーディネーターとしての役割を担っている人が必要となりますが、各校とも人材発掘が難しいと思います。その他の社会教育との関りについては、トライやるウィーク事業において図書館で職場体験を行っています。今後、フィードバックも兼ねて図書館の職員が学校に来ていただいて、出前授業というか工夫してやっていただければいいのではないかと考えています。

(議長)

次の委員をお願いします。

(委員)

小学校、中学校で図書ボランティアの活動をしています。コロナウイルスの影響で年度当初は学校の休止に伴い活動を休止していましたが、秋ごろに中学校からはボランティアの依頼がありました。ただ、私が活動している小学校では、図書ボランティアの活動はありませんでした。図書ボランティアは、図書の整理や貸し出し補助が主な活動内容ですが、地域住民や保護者が集まり会話することで、ボランティア同士の息抜きになっています。活動の休憩中に子どもの家での状況や学校の先生との関係など、言いにくい話も話せる場と雰囲気があることがいいことだと考えています。コロナウイルスの影響で、集まることがなくなり、息抜きもできずに抱え込んでいないかと心配になります。気持ちが落ち込んでいるときは、些細なことで落ち込んだりします。学校や地域によって差もあると思いますが、そういった息抜きの場を作ることが必要でないかと考えます。

(議長)

それでは、今までいただいた意見の総括を交えて、お願いします。

(委員)

まちづくり協議会が作成しています「地域ごとのまちづくり計画」は、押さえるべきポイントだと思います。委員の意見にもあったように様々なカテゴリで課題があると思うので、「地域ごとのまちづくり計画」を基本に考えていけばいいと思います。あとは、若者の参画、学校と地域の連携も基本に踏まえて整理できればいいのではないかと思います。若者の参画に関しては、NPOなども含めて宝塚市の若者の活動がどういった内容があるか整理したいです。また、コロナウイルスの影響について、状況を整理するのはいいのではと考えます。おそらくコロナウイルスの影響によって孤立している方はいらっしゃると思うのですが、見えにくい状況だと思います。図書ボランティアの活動についても意見がありましたが、悩みを共有する場を設置することは宝塚市に限らず、非常に大切です。「地域ごとのまちづくり計画」を基本にしつつ、NPOや公民館などの行政で抱えている課題も再整理できればと思います。

(議長)

市全体から考えるのではなく、それぞれの地域やまちづくり協議会から挙がってくる課題から考えていくのは、いいのではないかと思います。また、委員からの意見でもあ

った学校との連携は、非常に大切ではないかと考えます。それでは、今までの意見について質問等あればお願いします。

(委員)

P T Aに所属する保護者は、子育て、仕事をされている方が多いです。若い世代の地域活動への参加が望まれています。時間に追われながらでは、P T A活動にも疑問を抱くのは必然かと感じています。社会教育としてP T Aに望むことは、今すぐの参加協力というよりも、今の活動を基に将来は地域活動の主軸となってもらえるよう、若い世代の状況を理解したうえで様々な繋がりを持つことであると考えます。

(事務局)

以前は、P T A活動を終了したら、まちづくり協議会に参加していただく方が多かったが、現在では繋がらなくなっていることが多いです。コロナウイルスによって、その繋がりはさらになくなるように感じます。

(議長)

委員の意見にもいくつかありましたが、西谷地区については可能性のある地区だと思います。ただ、ゼミ生にも西谷から通っていた生徒がいたので、自然も豊かでいい地域だと思つたと伝えると、周辺に商業施設がないため、アルバイトすることも難しく、交通の便が悪いため、通学や就職活動に困難していた。物理的な環境が大きいと思うのですが、西谷に関心を向けてもらうにはどうすればいいかも考えていければと思います。

まだまだ意見はあると思うのですが、本日いただいた意見を答申の作成に繋げていきたいと考えています。

(事務局)

各委員の意見は、まとめていただきましたが、まちづくり協議会が作成しています「地域ごとのまちづくり計画」は、基本になると思います。ただし、まちづくり協議会によって、課題は様々であること及び幅広い内容であることが予想されるので、市民協働推進課と連携しながら事務局で整理いたします。課題を整理する段階で委員にも相談させていただきます。若者の参画についてですが、宝塚市にあるN P Oセンターを含めて事務局で調査します。孤立に関してですが、地域福祉課、社会福祉協議会といった関係機関と連携して課題を考えていきたいです。公民館、図書ボランティアに関しては、事務局が所管課のため、現状の課題に関して提供できればと考えています。なお、スケジュールとしては、年内に答申内容を確定できればと考えています。次回の日程調整については、後日改めて調整をお願いさせていただきます。

(議長)

それでは、以上をもちまして、本日の議事を終わらせていただきます。